

マンション防災ガイドブック



—大牟田市—

マンション特有の災害リスクに備えるためには、居住者一人ひとりの「自助」と居住者同士が協力する「共助」が重要です。

また、大きな災害ではマンション居住者だけではなく、地域社会と協力することも必要です。普段から地域の一員として災害の備えに取り組みましょう。

1 もしも大地震が起こったら

地震を例にしていますが、風水害でも電気・水道は止まることがありますので、参考にしてください。

●身の安全をまもる



強い揺れを感じたらすぐにクッションや毛布などで、頭部をしっかりガードしたり、テーブルの下などに隠れるなど、身の安全をまもりましょう。

●火の元の確認と元栓を閉める



揺れがおさまったら、ガスコンロなどを切りましょう。（揺れている時はかえって危険）電気器具のショート、ガス漏れ、水漏れなどを防ぐため、ブレーカーを落としたり、元栓を閉めておきましょう。

●避難経路を確保する



揺れがおさまったら、玄関ドアを開けて出入口を確保しましょう。再度の揺れでドアが開かなくなる可能性があるため、そのままをキープ。ベランダの避難はしごなどを使った緊急時の避難も事前に確認しておきましょう。

●トイレは流さない



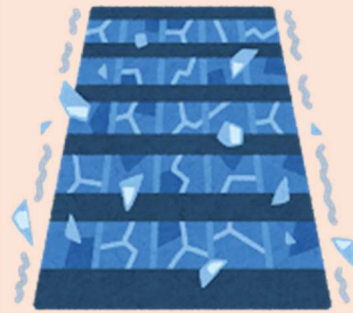
排水管が使用可能なことを確認できるまでは、トイレの水を流さないようにしましょう。排水管の損傷に気づかずにトイレを使用すると下の階で汚水があふれる可能性があります。

●エレベーターは使用しない



大きな揺れの直後は、たとえエレベーターが動いていても使用してはいけません。故障や停電でエレベーター内に閉じ込められる危険があります。

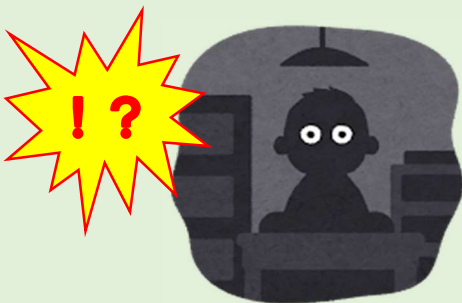
●屋外には飛び出さない



マンションから慌てて飛び出すと、上階から窓ガラスなどが落下し、ケガをする危険性があります。現在の建築基準法で建てられたマンションは、地震による倒壊の可能性は低いです。

2 共用設備はどうなる？

●停電



停電すると、エントランスや廊下などの共用部分も暗くなります。

●エレベーター



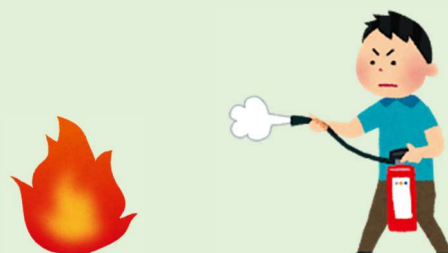
強い揺れを感知すると最寄りの階に自動で止まりますが、故障や停電の影響で閉じ込められる危険があります。

●断水





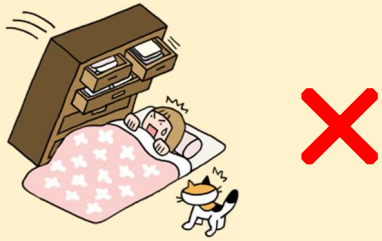
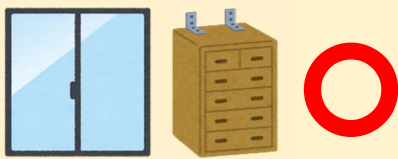
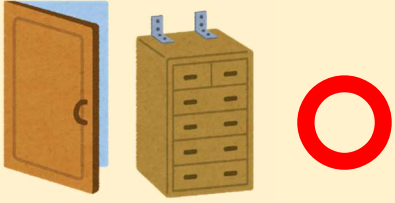

水道管の破損や、給水ポンプの停止などで水が使えなくなります。

●火災



共用廊下または住戸の玄関には屋内消火栓や消火器が設置されています。使い方を事前に確認しておきましょう。

3 すぐにできる家具の配置の工夫








部屋		寝室
		
		
倒れても窓ガラスに当たらない方向に置く。	転倒したときに避難の妨げになる位置に家具を配置しない。	寝る位置に家具が倒れてこないように配置する。

※**家具の固定**：家庭内で身の安全を守るためには、家具の転倒、落下、移動を事前に防ぐことが重要です。L型金具などで壁に固定したり、ポール式器具（つっぱり棒）やマット式器具などを組み合わせてしっかり固定するようにしましょう。

4 災害に備えて物資の備蓄をしよう

【各家庭での備蓄品の例】

ご家庭により、必要な備蓄品は異なります。お子さんがいる家庭ではおむつや粉ミルク、女性がいる家庭では生理用品など、各家庭で必要なものを事前に準備しておきましょう。普段使っているものを、常に少し多めに備え、使った分を補充する「ローリングストック法」もオススメです。

飲料水・食料		人数×3日分（食）×7日分（最低3日分）
携帯トイレ		人数×5回以上×7日分（最低3日分）
懐中電灯		停電時に必須
救急セット・処方箋		応急手当用・持病の薬など
モバイルバッテリー		停電時は携帯電話等の充電ができません
カセットコンロ		温かい食事やお湯が沸かせます
ウエットティッシュ・タオル		手指の消毒・除菌・体拭き

※**注意**→高層階に住んでいる方は災害時にエレベーターが使用できません。階段で何リットルもの飲料水や生活必需品を運ぶことは非常に困難です。日頃から計画的に備蓄しましょう。

5 居住者みんなで乗り越えよう

●災害対応用スペースを活用する

居住者が共同で使用できるスペースは、支援物資の仕分け場所などに有効活用できます。

●必要な情報を伝え合い、共同で作業分担する

連絡や物資運搬、清掃、防犯見回り、支援を必要とする人への声掛けなど、居住者同士で分担して困難を共に乗り越えましょう。

●避難所と連携し、在宅避難者[※]へのケアをスムーズに

最寄りの避難所に、被災状況や避難生活者数、情報伝達の方法などを連絡しておき、地域と連携しましょう。

●地域の支援活動に協力する

マンション等の共同住宅の居住者であっても地域の一員です。避難所運営の人手が不足している場合は協力しましょう。

※**在宅避難者**とは、災害が発生した際に、避難所へ行かず自宅で避難生活を送る人々のことを指します。これは、自宅が倒壊や浸水の危険にさらされておらず、ライフラインが一部停止しても生活を継続できると判断される場合に選択される避難方法です。

6 身のまわりの災害リスクを確認しておく

防災ガイドブックや防災マップを使って身のまわりの災害リスクを確認しておきましょう！

『大牟田市 防災情報』で検索してみよう！



地震、津波、風水害など、災害は突然やってきます。防災ガイドブックを活用し、災害が起きたときの「もしも」に備えて、自分や家族、地域の「困りごと」を事前に解決しておきましょう。



自宅や職場がどの災害のときに、こういった危険があるかを確認するための情報を記載しています。また、避難先や避難経路を決めるときの参考としてください。



7 「防災リアルタイム情報」を活用しよう！

防災リアルタイム情報とは、

- ・災害時は被害発生箇所などの緊急情報、
- ・平常時は浸水想定区域などの事前情報を確認できる防災専用ホームページです。



QRコードで読み取り、または『大牟田市防災リアルタイム情報』で検索してみましょう！



①避難情報の発令状況

災害時に「避難情報」の発令状況を確認することができます。

②避難所開設状況

開設している避難所や避難所の混み具合を確認できます。

▶避難所のアイコンの色で、開設状況を確認することができます。(色の違いは、凡例を確認ください)

③メニューボタン<リンク>

▶「防災ハザードマップ」や「防災ガイドブック」をスマホで簡単にチェックできます。

▶気象庁のホームページで「警報・注意報」、「浸水キキクル」、「洪水キキクル」、「土砂キキクル」、「今後の雨」、「雨雲の動き」などを確認できます。

④市内の状況

災害時の被害発生箇所の画像や通行止め情報等を確認できます。

⑤情報表示

電子版ハザードマップとして活用できます。

▶必要な情報をチェックすることで、河川や高潮・津波の浸水想定、土砂災害警戒区域のほか、令和2年豪雨の浸水実績等が確認できます。

雨量計 

水位計 

監視カメラ 

雨量計：「時間雨量」、「累計雨量」をグラフと表で見ることができます。

水位計：河川やため池の現在の水位をグラフで見ることができます。

監視カメラ：河川等の画像を見ることができます。

各アイコンの色の違いは、凡例を確認ください。

発行：大牟田市防災危機管理室

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL：0944-41-2894 FAX：0944-41-2893

MAIL：e-bousaikk01@city.omuta.fukuoka.jp